



1 学年通信

五所川原高校
令和5年12月

「未知の領域に挑戦して欲しい」

成長とは「未知の領域への挑戦」という**試行錯誤によって起こる**ものだと思います。未知の領域といっても未開のジャングルの奥地、光も届かない深海、月の裏側など、人類にとっての未知の領域ではありません。**自分にとっての細やかではあるが未知(または未開)の領域**のことです。例えば未就学児の頃は家族(家の中)が世界のほぼ全てだったと思いますが、そこから小学校という未知の領域へ一歩踏み出すことで自分の世界が広がっていったはずです。当初は未知の領域であった小学校という世界で試行錯誤することで成長し、中学校という次の領域に挑戦する準備が整ったはずです。

「イツメンの打破」

毎週水曜の7校時はHR活動を実施しています。2学期は15回実施しましたが、その内の4回は**学年のクラスを全てシャッフル**して、なるべく普段は話したことのない人と関わる時間をつくりました。この活動の目的は「イツメン」(すでに死語になっていたらすみません・・・)の打破です。いつものメンバーは大切です。もしかすると一生の友人になるかもしれません。しかし、**居心地の良いイツメンの枠の中だけで生活するのはもったいない**。本校には多くの地域から生徒が集まっている訳ですから、校内には未知の領域(関わったことのない人や自分では考えもしなかった考え)に触れる機会が多く残されています。重要なので何回も言います。**せっかく五所川原高校に入ったなら、この学校でなければ出会うことのできない様々な人たちと関わってください**。なお、3学期は2学年とも関わる機会をつくります!!

「2学期お疲れ様でした!!」

35分の9が終わりました。残り26です。(何の暗号かと思った人は第一号を読み直してみてください。)1学期は慣れない校舎や新しいメンバーなどに緊張して、時間の経過が長く感じた人も多かったと思いますが、2学期って結構早く感じませんでしたか?(逆に長く感じた人もいます)いずれにしても、気が付けば令和5年も終わりそうです。この一年が凄く良い一年だったという人も、ガッカリだったという人も、これから迎える**次の一年が良い年になることを心から祈っております**。

さて、通知表の通信欄に短い文で「**先を見通す力**」について書きました。2学期の皆さんの姿を様々な場面をとおして見てきましたが、一人ひとりが個性を発揮し始めていて、たくましくなりました。そんな姿を見て成長を感じずにはいられません。成長の方向は様々ではありますが共通点を見つけました。それが「**先を見通す力**」です。学習面において先を見始めている人、部活動において先を見始めている人、趣味において先を見始めている人など、様々な場面で「**先を見通す力**」の成長を感じました。先を見始めるとワクワクして行動せずにはいられなくなります。狂ったように没頭し始めます。「よくそんな苦しそうで単調なことを毎日やられているね」って思われたり、言われたことはありませんか。そんなあなたは、その分野において先を見通せています。はたから見ると苦しそうなのが、**このゾーンに入った人にとっては「ワクワク」の塊**なのです。ここまで読むと、今現在「将来に不安を感じて立ち止まっている人」は「没頭している人」と真逆に位置しているように思うかもしれません。**でも安心してください**。その状態も先を見始めているからこそ起こる現象です。恐れず、調べたり相談したりしながら考え続けてください。そして勇気を出して一歩を踏み出しましょう。たとえ踏み出した先が失敗だったとしても大丈夫です。その一歩が試行錯誤の一つとなって、**あなたの将来に役立つ「判断力」を1つレベルアップさせます**。

「学習習慣などを見つめ直してレベルアップを」

12月13日(水)に実施した HR 活動では、ベネッセが作成してくれた「全国エリア別平均偏差値推移」(詳細は Classroom で再確認してください。)を基に、私たちが所属する東北エリアと他のエリアとの比較や、東北エリアのこの時期の現状について話し合ってもらいました。「東北エリアが全国と比べて低いことを知って驚いた。」「この時期に偏差値が下降するのは気の緩みではないか。」など、多くの意見が交わされました。次に「あなたが担任であればどんな対策をしますか?」というワークショップを実施したのですが、そこでは「講習をやる。」「頑張った人にプレゼントあげる。」「お正月返上。」など面白い意見がたくさん出されました。ワークショップ後の感想には「先生方が色々な手だてを講じている意味が分かった。」というような内容が思った以上に多くありました。そういった考えに行き着いた人は主体的に学ぶ準備ができつつあるのかなと思います。勉強もスポーツも伸びる人の行動や思考の構造には共通点があります。それは主体的に学び、行動しているという部分です。彼らは自分の現状を客観的に評価し、その評価をありのまま受け入れ、課題を整理して対策を練り、次のレベルへ引き上げるための作業を粘り強く繰り返して行っています。ところで、皆さんは今の自分の主体性のレベルはどの程度だと思いますか。ちょっと考えてみてください。(一分経過)どうですか?客観的に自分を評価できましたか?なかなか難しいですね。客観的な尺度がなければ自分を甘やかしてしまうものです。そこで、次の資料を尺度としてもう一度考えてみてください。

131 学習ルーブリック 簡易版				
レベルが上がるほど課されたこと以外に、自ら考え工夫して学習を続けられるようになる				
	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
学習習慣	☐ 宿題など課されたものに着手はする ☐ 試験直前は学習に取り組む	☐ 日々自主学習時間を確保している ☐ 宿題など課されたものは確実に取り組む	☐ 学習開始時間などを固定し、安定した学習時間を確保する ☐ 宿題以外にもテストの復習など、必要なことを考え、取り組む	☐ 多くのことに興味・関心を持ち本やインターネットなどで調べたり、自ら課題を見つけて学習に取り組む
学習方法	☐ 自分なりの方法で学習に取り組む	☐ 得意教科では、理解を深める学習方法を実践する	☐ 複数教科で理解を深める学習方法を実践している ☐ 得意教科では、適切な解答方針を立てて学習に取り組む	☐ 複数教科で、適切な解答方針を立てて学習に取り組んでいる
粘り強さ	☐ 試験直前は試験範囲の学習に取り組む ☐ 授業中では集中して学習に取り組む	☐ 得意教科を前向きに学習している ☐ 授業中ではわからない問題はすぐにあきらめずに取り組む	☐ 苦手教科にも向き合っている ☐ 直ぐにできない課題や難しい設問に直面してもあきらめずに向き合う	☐ 自分で決めた学習計画に対して継続的に取り組める ☐ あやふやなことは納得するまで追求する
自己調整	☐ 試験直前に試験範囲を把握する ☐ わからない点は友人や先生に確認する ☐ テストで間違えた所は確認している	☐ ただ暗記するのではなく理解して覚える ☐ テストで間違えた問題について、なぜ間違えたのか考える ☐ 授業に目標や目的を持って取り組む	☐ 優先順位を決めて学習している ☐ 計画や目標を決めて学習している ☐ 自分なりに習ったことどうしの関連づけを行っている	☐ 学習の計画がうまく進んでいれば見直している ☐ 背景や他の事象とのつながり考え、図や表などでも表現できる ☐ できるようになったことを抽象化し、次の活動に転用する

短い3学期が過ぎるとすぐに2学年に進級です。高校総体が6月、文化祭等を7月に行い、10月初旬の修学旅行が終われば、受験生0学期のスタートです。この受験生0学期をスタートする前までに各教科(特に英数国)の基礎基本の部分を定着させておくことが、その後の伸び率と関連性が高いと言われています。そのためにも、学習習慣や学習方法だけではなく、粘り強さや自己調整力についても進級する前までに覚悟を決めてレベルアップさせて欲しいと思います。特に粘り強さや自己調整力をレベルアップさせることは、学習のためというだけではなく、今後の人生において大きな財産となるはずです。